

平成 20 年 6 月 25 日

## 官民競争入札等監理委員会ヒヤリング メモ

出口正之

1. どのような分野で公共サービスに民間の創意工夫を生かせるか。
  - ・ 一般的には上下水道、刑務所、大学、橋、トンネル、政府ビル、公園などあらゆるサービスが PPP (パブリック・プライベート・パートナーシップ) として考えられている。但し、国際的には、それに加えて「電力」などが上げられることがあり、制度的なことばかりではなく、文化的な側面もある。
  - ・ 日本ではいろんな分野で、官民混ざると、「官の優性化現象」が生じる傾向にある (たとえば、英語の third sector と日本語の第三セクターの違い)。
  - ・ 民間の創意工夫の本質 (職員の加点評価 = 前例主義ではなく、リスクをとりうること。実質合理性。機会費用をコストとして認識。) が発揮できるということが重要。
2. 市場化テストの候補として考えられる分野としてはどのようなものがあるか。
  - ・ 新規公共分野。言い換えれば、一から「市場化テスト」を行うことができる分野。
3. 公共サービス改革を一層進めるにはどういふことを行う必要があるか。
  - ・ 英米をはじめ、市場化テストをはじめとする PPP で成功している国は純粋な「非営利団体」の力が大きい。また、導入をしている発展途上国でも、外国の資金をもつ NGO が、地方自治体よりも力があるというような場合もある。諸外国では PPP は、寄附やボランティアの参加という要素を持つ理念型としての「非営利団体」の参加も前提となっている。その点で「非営利団体」の足腰を健全に育成していくことが環境整備として不可欠。
4. 最近の市場化テストの動きをどのように評価するか。
  - ・ 「官から民」への大きな動きは不可欠。市場化テストについては総論としては高く評価している。
  - ・ 「官と民」の競争という点では、「構造的」なところで、アクセルがかかりにくくなっている印象をもつ。各省庁等が、スケープ・ゴートとして、特定事業を「差し出している」という印象は否めない。
  - ・ PPP 全体に言えることだが、単にコスト面だけでは、契約社員などに蹴寄せが行くだけ。人材を使い捨てにしているという点で、将来的には大きな問題を作り出しているのではないか。
  - ・ 入札する事業だけではなく、「官民競争入札」事例が増加することによって、官全体にコスト意識が生まれることが必要であるが、事実上「官民競争入札の事例」がほとんどなく、「官」に対して、緊張感を与えるところまで行っていないのではないか？

以上